

論文情報、世界標準で公開する時代へ

—— 国立スポーツ科学センター(JISS)と国内スポーツ関連学会との
連携における、新たな取り組み ——

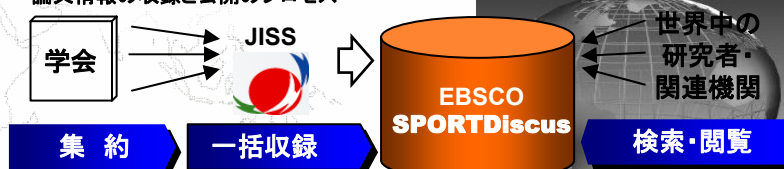


SportDiscus® Database

JISS、国内スポーツ関連学会、EBSCO3者による
協力体制で、世界への論文情報の発信を実現

- ✓ 英文アブストラクト、世界レベルで公開を
- ✓ 世界最大のスポーツ研究データベースに
- ✓ JISSと国内スポーツ関連学会との連携

論文情報の収録と公開のプロセス



SPORTDiscusで世界と繋がる

～ 世界最大のスポーツ研究データベース「SPORTDiscus」で、英文アブストラクトを世界に公開 ～

このたび、国立スポーツ科学センター(JISS)と国内スポーツ関連学会との連携により、各学会が発行する査読誌に論文を掲載することで、各研究論文のインデックス情報及び英文アブストラクトが世界最大のスポーツ研究データベース「SPORTDiscus」に掲載できるようになりました。

SPORTDiscusを通じて論文情報を公開することで、世界のあらゆる研究機関や研究者が論文の所在を知ることになります。これは、研究領域の枠を超えた新たな研究知見の融合に繋がることを意味しており、さらなるスポーツ研究の活性化が期待されます。

SPORTDiscusを保有するEBSCO(エブスコ)社とJISSは、SPORTDiscusへのスポーツ関連論文情報の一括収録に関するパートナーシップを組んでおり、JISS—国内スポーツ関連学会連携会議への参画学会は、手間とコストをかけずにSPORTDiscusへの論文情報の収録が可能となりました。



JISS-国内スポーツ関連学会連携会議について

～ SPORTDiscusでの世界発信プロジェクトが始動 ～



SportDiscus® Database

会員ベネフィットの最大化を目指し、
国内スポーツ関連学会は新たなチャレンジを始動

学術成果情報の管理・公開の様相は今、大きく様変わりしつつあります。日本のスポーツ関連学会はそれぞれのアイデンティティを確立し、世界標準でのプレゼンスを高めていくために、「次のステージへと進むための新たなチャレンジ」を始めています。

我が国におけるスポーツ情報の中核的機関としてのJISSの役割については、文部科学省が2000年に策定した「スポーツ振興基本計画」の中にその方向性が記されています。JISSがスポーツ医・科学の研究成果をはじめとしたスポーツ情報の収集・提供を通じて、研究情報の横断的な共有や交流をさらに活発化させ、研究知見が様々な現場や場面で活用されるようにする上でも、国内スポーツ関連学会との連携は大変重要な取組みと言えます。

そのような背景から2005年4月、日本学術会議に登録された36の国内スポーツ関連学会を対象に、国内スポーツ関連学会連携会議が開催されました。同会議では、これまでにSPORTDiscusへの論文情報の収録や学術論文データベース、JISSの研究成果の公開促進等について意見交換や議論がなされてきました。

2年目となる2006年度は、EBSCO社とのパートナーシップが生まれ、SPORTDiscus活用方策について、重点的に検討や作業が進められています。

◆会員ベネフィットの最大化に向けて始動した8学会

日本臨床スポーツ医学会、日本バイオメカニクス学会、国際女性スポーツ学会、身体運動文化学会、
日本スポーツ歯科医学会、日本スポーツ社会学会、日本体育測定評価学会、日本柔道整復接骨医学会

SPORTDiscus活用事例

～ 日本臨床スポーツ医学会で公開準備開始！日本スポーツ歯科医学会も続く！ ～

日本臨床スポーツ医学会では、学会誌の最新号及び2002年までのバックナンバー(11号分)に掲載されたすべての論文情報(インデックス情報と英文アブストラクト)について、SPORTDiscusを活用して世界に発信することを決定。2006年6月下旬、国立スポーツ科学センターを通じてEBSCO社に送付され、収録作業が開始されました。

また、日本スポーツ歯科医学会では2006年7月、SPORTDiscusへの論文情報の収録を決定。同学会では著作権に関する規定により、学会誌ならびに学会ウェブサイト等を通じて、一定期間、会員への周知手を踏んだ上で収録作業に移行することが確認されました。



SPORTDiscus : Quick Facts

——— 世界最大規模のスポーツ関連データベース、
その有用性と利用について ———

SportDiscusは・・・

- 世界最大規模のスポーツ関連データベースであり、主に大学、図書館、病院、スポーツ企業等、世界各国の関連機関が利用。(世界で39カ国、うち、欧州で19カ国)
- 顧客として、日米欧の有名大学やオリンピック委員会、有名スポーツ用品メーカー等が利用。
- スポーツ科学系のインパクトファクターランキングTop10のうち、8ジャーナルを収録。(2003年ランキング)
- スポーツ関連では、他のデータベースを圧倒する最大級の情報量。
- 2004年アテネオリンピックのメダルラントップ10となった国の関係機関はすべてSPORTDiscusを利用。

世界規模での情報提供を致します!!

SportDiscusは世界中の様々なスポーツ関連データベースを統合することにより、世界最大級のデータベースへと進化をとげました:

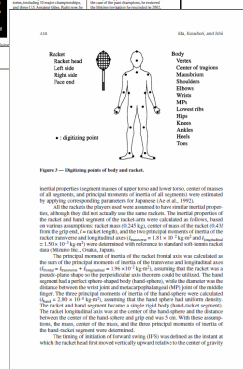
Heracles (France) / Atlantes (Spain) / the Olympic Museum Catalogue (Switzerland)

また、各国の国際的なスポーツ関連機関より情報の提供を受けております:

Australia / Belgium / Brazil / Bulgaria / Canada / China / Denmark / Finland / Germany / Israel / Italy / New Zealand / Norway / Poland / Portugal / Sweden / Taiwan / Thailand / United States. ...and JAPAN!



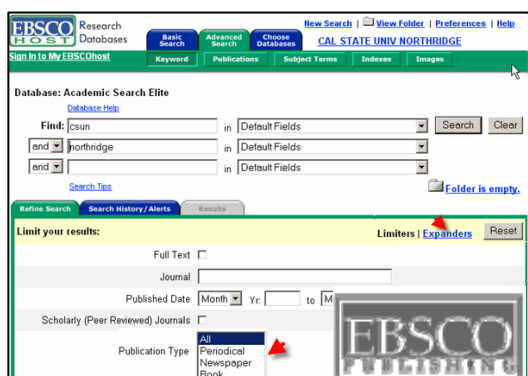
PDFイメージ:
Magazine



PDFイメージ:
Scholarly Journal

EBSCOhost*からのSPORTDiscus利用状況・・・

- 利用者数は上昇傾向にある。年間のべ147万件のアクセスと522万件の検索が行われました！(EBSCO社クライアントのみ、2005年度実績)
- 2006年1月からは学術情報の全文検索を可能とする新サービス「SPORTDiscus with Full text」をスタートし、好調な滑り出しを見せています。
- 2005年度にEBSCO社はSPORTDiscusを傘下に収めました。そのため、SPORTDiscusを提供できるのは、今後はEBSCO社のみとなります。



EBSCO Information Services (エブスコ) 社:
EBSCO社はMedlineやAcademic Search等、世界有数のデータベースを所有する世界最大級の出版情報企業で、D&B格付けで5A1(最高ランク)の評価を受けている私企業です。
エブスコ社の提供するEBSCOhostインターフェースは、その利用のし易さから、世界中から多くのユーザーに親しまれてきております。